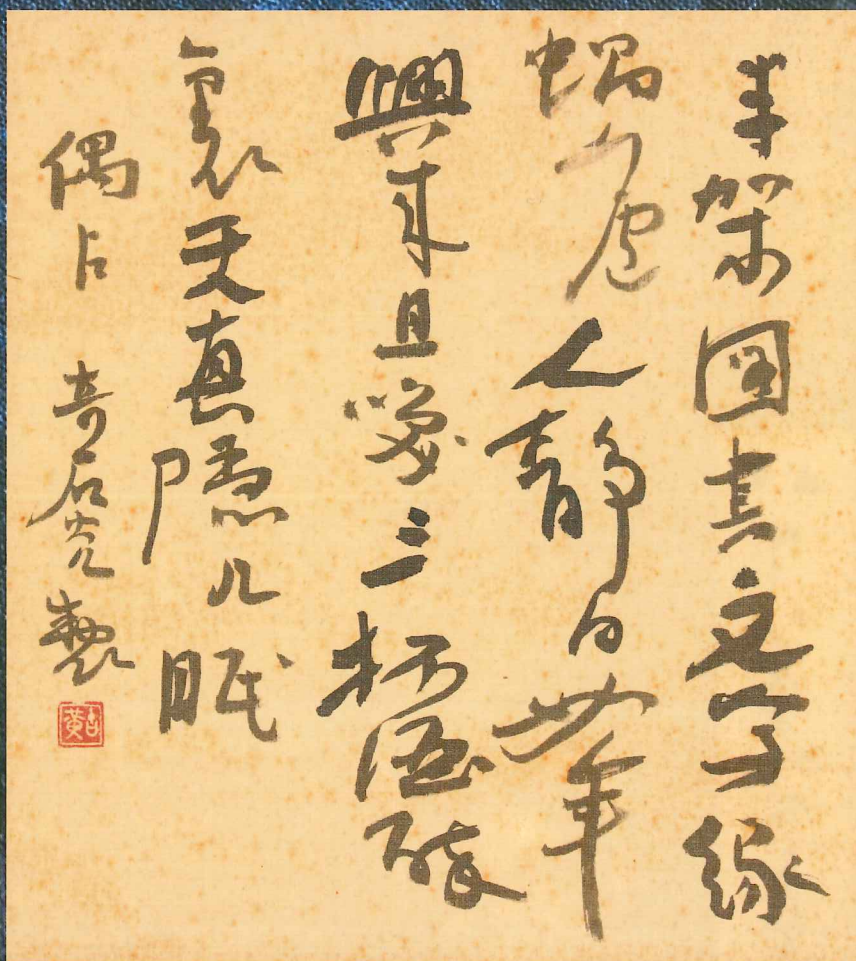


小坂奇石

自作の漢詩を書く



自作詩「七絶詩」67歳 関西名流書作家小坂品展出品作
自らの書齋で静かに気ままに過す様子を詠っている。

2023年
6月16日(金)～8月3日(木)

開館時間 9:30～17:00

休館日 月曜日(ただし7月17日は開館、翌18日休館)

会場 1階 特別展示室・ギャラリー

観覧料 一般520円(410円)／高校・大学生360円(290円)／小・中学生260円(200円)
()内は20人以上の団体割引料金。
小・中・高校生は、土・日・祝日・夏休み期間は無料。高齢者(65歳以上)と各障
がい者手帳をお持ちの方は半額。

主催 徳島県立文学書道館

後援 徳島県教育委員会 徳島新聞社 四国放送 NHK徳島放送局

関連イベント

■トーク 「小坂奇石の漢詩と書」

講師 佐藤芳越(璞社副会長)

日時 7月9日(日)13:30～15:00

会場 1階 ギャラリー

定員 100人(応募者多数の場合は抽選)

*無料だが、申込必要

■展示解説

講師 佐藤美和(当館専門職員)

日時 7月17日(月・祝)・27日(木)

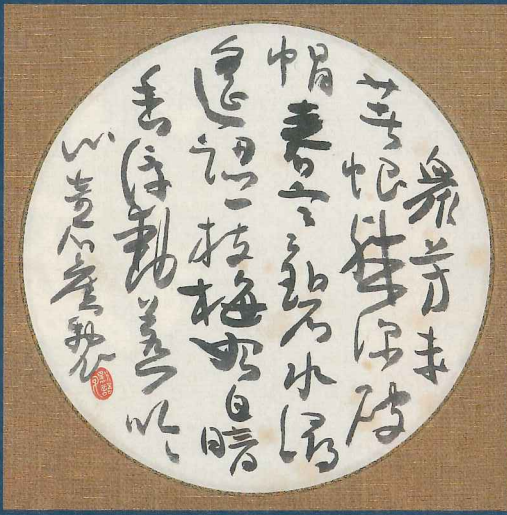
11:00～11:30

*申込不要 観覧券必要

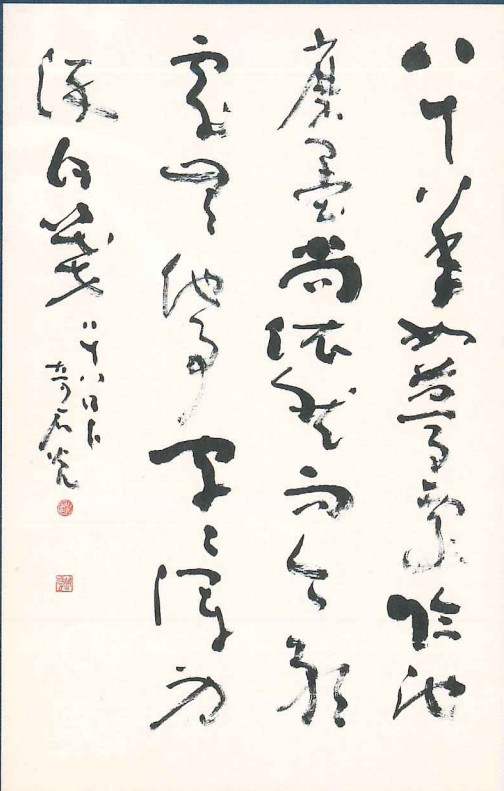


徳島県海部郡美波町出身で、昭和の時代を代表する書家・小坂奇石（1901-91）は、28歳の頃から漢詩の勉強を始めました。漢学者の梅見有香、漢詩壇の第一人者・土屋竹雨らに師事して26年間学び、「漢籍の素養を持つ書家」として注目を集めました。

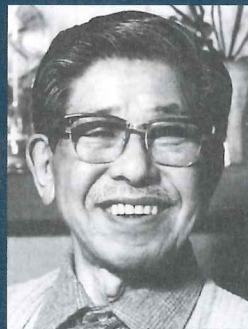
四季折々の風景などを詠った詩には、奇石の折々の心情が吐露され、書だけでは味わうことができない奇石の心奥が透けて見えます。今回の特別展では、自作の漢詩を題材にした書作品や陶磁器合わせて26点を展示し、詩の内容とともに高い書技と一体となった奇石作品の魅力を紹介しします。



「探梅之詩」63歳 現代書道二十人展出品作
「一輪の梅に詩の創作意欲が掻きたてられた」とを詠った。



「八十八口占」88歳 米寿記念個展(控)
米寿を迎えてなお「渾身の力を白箋にうつすのみ」と書への決意を述べている。



こさか きせき
小坂 奇石
(1901-91年)

徳島県海部郡美波町出身。名は光太郎(みつたろう)。書は少年期に阿部捉龍に、その後、黒木栞石に師事した。1957年、書道研究「璞社」を設立。

漢詩は29年、28歳のときに漢学者・梅見有香に師事。以後土田江南、増田半剣、長岡参寥、土屋竹雨の各氏に師事し、26年間にわたって学ぶ。

長年勤めた大阪ガスを定年退職後、奈良教育大学などで教鞭を執った。書家として初めて日本芸術院恩賜賞・日本芸術院賞を受賞、「書の本質は線にある」とし、“線の行者”として知られた。

■トークの申込方法

※はがき、FAX、メールのいずれかに「小坂奇石展トーク」と明記の上、郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・電話番号を記入し、当館までお申し込み下さい。当館1階受付でも申し込みます。
(申込締切は6月25日。応募者多数の場合は抽選になります)

■交通アクセス（JR 徳島駅から）

徒歩 約15分

JR 徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つ目の信号交差点を右折して約300m。徳島中学校東隣。

バス

【徳島市営バス】7番乗り場「川内循環線(右回り)」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し徒歩で約5分。

【徳島バス】15番乗り場「前川経由」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩で約5分。

タクシー・自動車 約5分

国道192号線、藍場町交差点を北進。助任川を越え、4つ目の信号を右折して約300m。当館北側に駐車場があります（乗用車43台・大型バス2台）。

